



…ドクター内田のひとりごと…

思いつくまま 70
気のむくまま



人生のクルーズ 思いやりを持って

新年あけたかと思ったら、あっという間に2月。皆様いかがお過ごしですか？

それにしてもコロナウイルスの流行、本当に厄介なものです。そういう私も実はコロナにかかっていました。のどの痛み、そして

何よりも40℃近い高熱。2日間ほど寝込みましたが、病気になることで患者さんの気持ちがよくわかり、あらためて健康でありまえに過ごせる毎日に感謝したことでした。

コロナに感染したことで図らずも時間ができましたので、買いためていた本を読むことができました。その中でも気になっていた「命のクルーズ」(高梨ゆき子氏:講談社)がとても印象に残ったのでご紹介します。これは皆様ご存じ大規模なコロナのクラスター感染を引き起こしたクルーズ船、ダイヤモンド・プリンセス号の話です。今でこそ感染の広がりや症状などかなり解明されていますが、2020年2月はまだほとんどのことがわかっていませんでした。そんななか得体のしれない新興感染症が船という閉鎖空間で流行し、何千人の方が2週間以上も船の中に閉じ込められたのです。今では多くの方がコロナにかかったり濃厚接触者としての経験をしていると思います。ですので1週間外出ができない、他の人と接することができないつらさを知る人も多いでしょう。それが、まだほぼわかっていない未知の感染症の前で、2週間以上船から降りることができないどころか部屋から出られないというのは想像を絶するつらさだったに違いありません。

この本は、ダイヤモンド・プリンセス号に乗船中の、まさにコロナのクラスターの真ただ中にいる人しか知りえない細かい内容がリアルに記されたノンフィクションです。特に乗客の置かれた状況、船のスタッフのふるまい、派遣された医療者の働きとその心境、政府の対応などが詳細に記されています。そして、報道で一方的にしか与えられてこなかった事

実は、真実の一部でしかないということがよくわかりました。また、あらためて日本の医療の良さと弱さを感じたことでした。なんといっても、出来事は多面的に見なければいけない重要性を教えてくださいました。

前述しましたように、今でこそ多くの人がコロナ感染もしくは濃厚接触者になりましたので、社会生活の中でも「お互いさま」の風潮が出来上がっていると思います。しかしコロナ流行当初は感染者や医療従事者に対する差別や誹謗中傷、排他的な行動が見られました。移動制限ができたことで県外ナンバーの車が気になった方も多かったでしょう。感染者の情報が噂になってあっという間に広がったりもしました。人間の愚かな心境なのか、集団心理における無意識の防衛本能なのかはわかりません。でも相手を批判していた人が感染者になったりもします。天に向かって唾を吐くとはまさにこのことです。あらためて謙虚な気持ちを持ち合わせておく必要性を感じました。

他人に対しても自分に対しても親切であること

人の生きるのを助け、自分自身の生きるのを助けること
これこそ真の思いやりである

(アラン:フランスの哲学者)

コロナに限らず病気になってしまったものは、その人が悪かったからではなく仕方のないこと。それは、雷が落ちて停電になったり、自分の背が低かったり、応援していたチームが負けたりなど、どうしようもないことかもしれません。そんなどうしようもないことも受け入れつつ、思いやりをもって今月も頑張っていきたいですね。

うちだ のぞむ
院長 内田 望

外来からのお知らせ

最新の休診情報は、町立病院のホームページ「診療日カレンダー」でお知らせしています。

※休日急患当番医は次ページをご覧ください。

発熱外来

発熱や咳など呼吸器症状等のある人は、発熱外来で対応します。必ず、事前にお電話(☎75-2332)いただき受診方法をご確認ください。

対応時間 ● 13:30~(受付時間:8:30~14:00)

〈お子さんをお持ちの人へ〉

小児については、小児科医による診察が望ましく、かかりつけ小児医療機関や埼玉県新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター ☎0570-783-770(24時間対応)に電話などでご相談ください。

